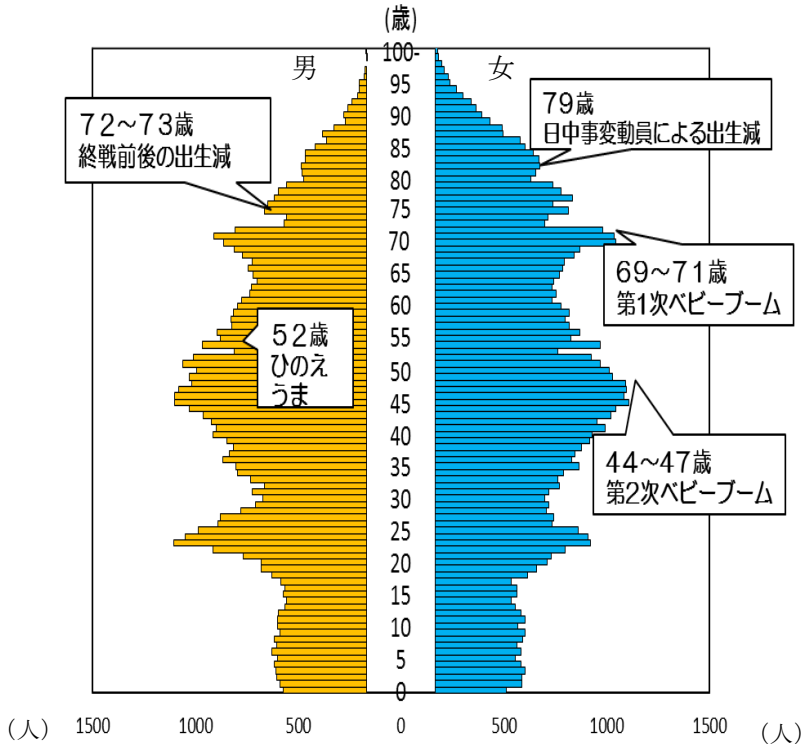


(千種区 18.18Km²)

統計なごやweb版 <http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/67-5-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

千種区の年齢各歳別人口構成と年齢 3 区分別人口の推移

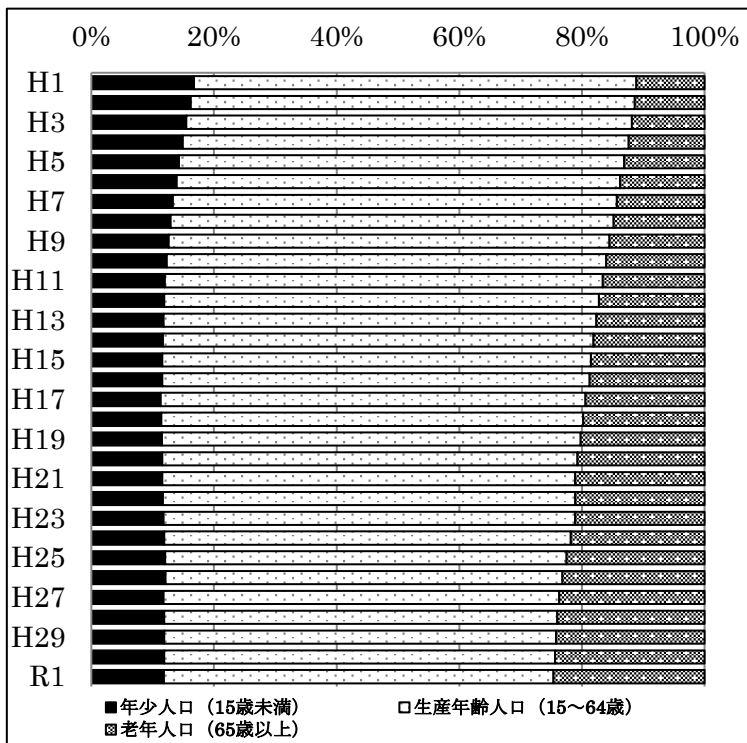
今回は令和 2 年愛知県人口動向調査結果に基づいて、千種区の年齢各歳別人口構成と、年齢 3 区分別人口の推移を見ていきます。



令和元年 10 月 1 日現在の千種区の人口を年齢各歳別人口構成でみると、79 歳および 72 ～ 73 歳の年代は日中事変や第二次世界大戦の影響によって、また 52 歳は「ひのえうま」の影響により人口が落ち込んでいます。

また、69 ～ 71 歳は第 1 次ベビーブームの影響によって、44 ～ 47 歳は第 2 次ベビーブームの影響によって大幅な出生増となっています。千種区の人口ピラミッドは、この 2 回のベビーブームの影響に伴う 2 つのふくらみを持つ「ひょうたん型」となっています。

図 1: 千種区の年齢各歳別人口構成（令和元年 10 月 1 日現在）



平成元年から令和元年の各年 10 月 1 日現在の年齢 3 区分人口の割合の推移を見てみます。平成元年と令和元年を比較してみると、年少人口（15 歳未満）の割合は 4.9 ポイント、生産年齢人口（15 ～ 64 歳）の割合は 8.6 ポイント減少したのに対し、老年人口（65 歳以上）の割合は 13.5 ポイント増加しました。

詳しく見てみると、年少人口の割合は平成 12 年まで減少傾向でしたが、以降は横ばいとなっています。生産年齢人口の割合は平成 7 年をピークに減少。老年人口の割合は増加を続けています。

図 2: 千種区の年齢 3 区分人口の割合の推移（各年 10 月 1 日現在）